

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：労働費 項：労政費 目：職業訓練費

事業名 【新】職業能力開発施設家賃補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

工労働部 労働雇用課 職業能力開発係 電話番号：058-272-1111(内3671)

E-mail：c11367@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 840 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	840	0	0	0	0	0	0	0	840
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

木工芸術スクールは全国各地から訓練生が入校しており、応募者の多くが寄宿舍への入寮を検討する(寮費：月30千円(家賃、食費、光熱費込み))。しかしながら、寄宿舍の定員は8名と少ないため、希望しても入寮できない訓練生が多く発生している状況である。

木工芸術スクールの応募者は減少傾向にあるが、入寮選考に漏れた場合に家賃補助を行うことで、生活面での不安を緩和し、応募者の増加や減少傾向の歯止めが期待できる。

(2) 事業内容

- ・寄宿舍へ入寮できなかった訓練生へ1年間の家賃補助を行い、木工産業の振興に寄与する人材を積極的に確保していくための事業。
- ・寮定員が8名になったR2年度以降、入校者の中で入寮を希望しても入寮できなかった者の最大数は、R4年度の7名であるため7名に設定する。
- ・1人あたり10千円×12月×最大7名＝最大840千円
- ・求職者支援制度に寄宿手当があり、公的職業訓練を受ける為に同居の配偶者などと別居して寄宿する場合に、原則月10,700円の寄宿手当が支給されるが、本事業は入寮できなかった訓練生と寄宿手当を受給していない訓練生を対象とする。

【補助対象】入寮選考に漏れた訓練生

【補助率】定額

【上限額】10千円/人/月

【対象経費】自宅からの通学が困難で民間アパート等を賃借する場合の家賃

(3) 県負担・補助率の考え方

訓練生は全国各地から入校しその多くが県内に就職し、本県への移住定住や木工産業の振興に寄与していることから、県が積極的に支援する必要がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	840	入寮選考に漏れた訓練生7名×10千円×12か月
合計	840	

決定額の考え方

公費負担とする特段の理由が無いため、計上を見送ります。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

なし

(2) 国・他県の状況

なし

(3) 後年度の財政負担

なし

(4) 事業主体及びその妥当性

県（県立の職業能力開発校施設のため）

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	職業能力開発校(木工芸術スクール)訓練生への家賃補助
補助事業者(団体)	岐阜県 (理由) 木工芸術スクールは岐阜県が設置運営する職業訓練校であるため
補助事業の概要	(目的) 入寮希望者が入寮できなかった場合の経済支援 (内容) 家賃負担軽減のため毎月1万円補助
補助率・補助単価等	定額 定率・その他(例:人件費相当額) (内容) 1人あたり10千円×12月×最大10名=最大1,200千円 (理由) ・10千円は、寄宿舍手当を参考(求職者支援制度) ・求職者支援制度の寄宿舍手当受給者(配偶者等と別居する場合に月10,700円支給) ・寄宿舍は食事込みで約30千円/月
補助効果	入寮希望の増加による応募者の増加
終期の設定	終期〇〇年度 (理由)

(事業目標)

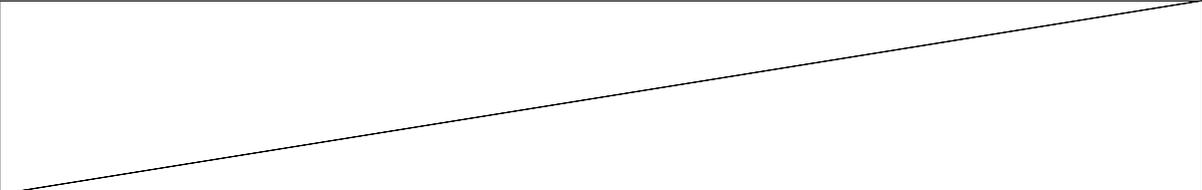
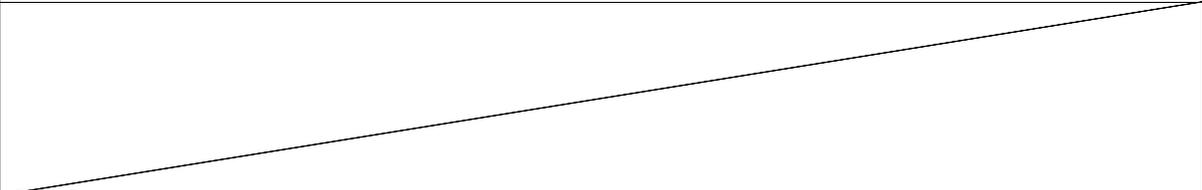
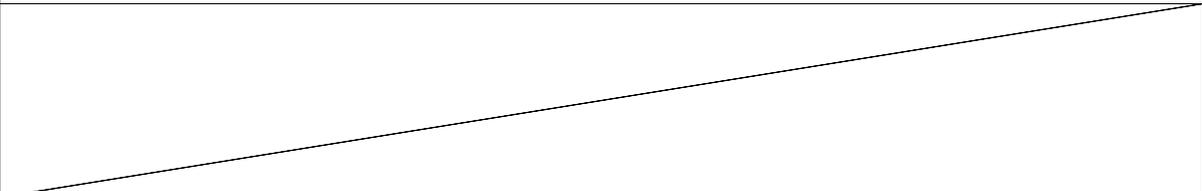
・終期までに何をどのような状態にしたいのか
家賃補助によって入寮希望者が増加し、常に定員以上の応募者を確保する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

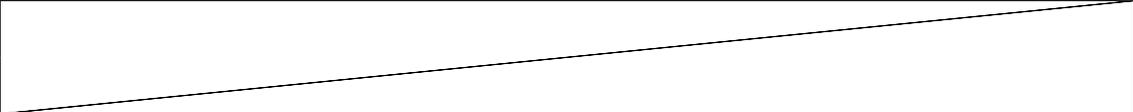
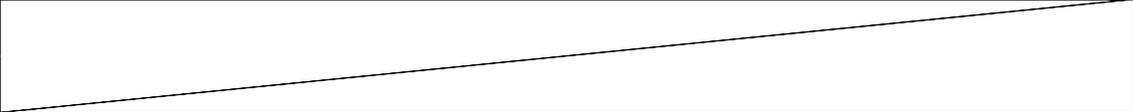
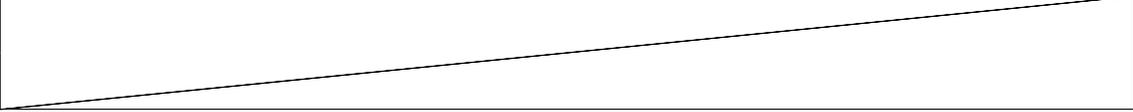
指標名	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 実績
①応募者数	39	36	29	62	36
②応募者中の入寮希望者	18	15	9	29	16
③入校後に入寮できなかった者	0	1	0	7	5

補助金交付実績 (単位:千円)			
--------------------	--	--	--

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和3年度	 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和4年度	 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
--